落語と講座と睡眠には枕が必要

余分であって、余分じゃない

2023/09/02

その日のトピックス

いま、小西甚一の著『古文研究法』を楽しく読んでいます ― ということをメールやホームページでご紹介しています。特に、この本で面白いのは、古文の文法を解説するのに取り上げている例文が、どれも、「いと、をかし」なのです。たとえば、「くちをし」と言う言葉を説明するのに、『徒然草』から、以下の文を例題として使っています。

雪のおもしろう降りたりし朝、人 のがり言ふべき事ありて 文をやるとて、雪のことなにとも言はざりし返事に、「この雪いかが見ると、一筆のたまはせぬほどの ひがひがしからむ人の おはせらるること、聴き入るべきかは。かへすがへす くちをしき御心なり」と言ひたりしこそ、をかしかりしか。（徒然草・三一段）

訳　雪のみごとに降っていた朝、人のところへ言ってやらなくてはならない用件があって手紙をやる際、雪のことを何とも書かなかったその返事に、「この雪をどんな

ふうに見るかと、ちょっと言ってくださらないほど風流気の無いみたいなお方がおっしゃることなんか、相手にできるものですか。ほんとうにまあ、ものたりない御心です」と書いてあったのは、たいへん趣のあることだった。

— となっていて、「いと、をかしかりけり」です。

小西は、「形容詞おもしろしは、中古語では、自然・景色・品物など客観的な存在に対して、興趣の深さを感じる意が主だったのである」と説明して「おもしろう」を「みごとに」と訳した自分の腕前を自慢しています。なるほど。　中古語の言葉の説明はそれはそれで結構なのですが、私が興味を持ったのは、この兼好法師の例文の内容です。そのときに起きているトピックに対してなにも触れないのは、「口惜しきみ心なり」という相手の中古人の心情です。なるほど。最初、この文を読んだときには、「作者は女で、清少納言かな？」と思いました。でも男で、兼好法師でした。鎌倉時代末期から南北朝時代にかけては、男同志でも、こんな微妙な心情を言い合うものなのだと感心しました。

枕詞としてのまくら

私が、講座やホームページへの導入で、なにかその日の関心事を短く、ときには少し長くなりますが、触れるのは、風流な御心があるからです — と思っています。落語の枕と同じであり、和歌の「枕詞」（まくらことば）と同じです。「猛暑とトリプル台風にご注意」とか、「今朝、翔平君はホームランを打ちました」とか、「聡太君は王位を防衛していよいよ八冠独占の王座戦へ向かいます」とか、「広島県の安芸高田市の市長石丸伸二氏と議会の対決はすさまじいです」とか — などといいます。これは突然、講座を、オペラの話題である、非日常的な話題「姦通」や「裏切り」や「人殺し」から始めるのではなく、いま、バスや地下鉄やタクシーを使って駆けつけたみなさまの、先ずもって、「労を労う」（ろうをねぎらう）ための日常的なごあいさつから始めるつもりですので、多言をお許しください。

申告敬遠は、ありか、なしか

翔平君では、右肘靭帯損傷が一番大きい不幸な話題で残念なのですが、それでもめげずに、今日もバッターボックスには立っています。それで話題は、「申告敬遠」に移ります。８月 26 日・日本時間 27 日のメッツ×エンゼルス戦の９回の最終第５打席目です。２死二塁のチャンスです。でも、メッツベンチは申告敬遠を指示。これにはエンゼルスファンだけではなく対戦相手のメッツファンからも「ＷＨＹ！」と球場を揺るがすような大音響のブーイングが起きました。ここ数試合、翔平君に対する「申告敬遠」が問題になっています。大谷の申告敬遠は、前日 25 日（同 26 日）のメッツ戦に続いて２試合連続で今季 18 回の多さです。むろん、ルールには申告敬遠が許されているのでプレー上、なんの支障もないのですが、観客のみなさんが野球を観に来るのは、勝負もありますが、名手たちのエキサイティングな対決を観たいがためです。勝負よりも、ゲームを楽しみたいのです。大谷との勝負を避けたこのときは、次打者のアンドリュー・ベラスケスとの勝負に打って出て、結果は遊ゴロにしとめ、メッツ監督ショーウォルターの勝ち。でも、結局は５ー３でエンゼルスが勝ったので、大谷や大谷ファンも溜飲を下げました。

「申告敬遠はルールから外そう」とか、「申告敬遠は一試合一回だけにしよう」とかマスコミでは問題になっています。結局、問題は、申告敬遠はルールにあるのですから、適宜、監督が自分の判断で自由に使って良いものです。でも、そのときに、その申告敬遠が、「勝負がゲームよりも多大に優先するものであるかどうか」を常に意識して行うことが大切です。観客やマスコミの顔色をうかがう必要はありません。チームの存続にとって、いまこの試合で、この申告敬遠がどうしても必要であると覚悟し

ての決定であるかどうかです。申告敬遠によって勝負に勝っても、そのためにファンを失っては元も子もありません。毒薬の使用は、いつも慎重であることが大事です。

でも、大谷エンゼルズが勝って良かったです。もし、ショーウォルター監督のメッツが勝っていたら、球場全体はグレンの炎となって燃え上がっていたことでしょう。そのときの両軍のために、次の至言が用意されています。

There are some defeats more triumphant than victories.
Montaigne（1533-1592）

世の中には、勝利よりも、もっと勝ち誇るに足る敗北があるものだ。 モンテニュー

ここでは、「勝利」を現すのに、英訳では「triumph」と「victory」の両方が使われています。英語も、器用です。また、日本語の訳も見事です。

保身と改革

安芸(あき)高田市の市長と議会の対立の事情は、ツイッターで動画などが放映され、そのリアルなやりとりが全国で 100 万回以上も観られていて、大きな話題を引き起こしています。議会のやりとりが、逐一、ＳＮＳで公開されて、百万を超える日本中の人たちがみています。市長の石丸伸二氏は４１歳。安芸高田市は、河井克行元法務大臣の汚職事件で揺れた広島県の人口わずか２万５千人の過疎の町の一つ。市長や市議が収賄で辞職したあと、市長に当選して、古くからいる老いた居眠り議員や新人に市長を恫喝する議員たちを相手に、日夜、都市の改造に邁進しています。素晴らしいです。市長は、京都大学出身でもと銀行のアナリストなので、弁も立ち、事務的能力にも優れています。議会での討論でもバッタバッタと古株議員を論破して世間の喝采を浴びています。汚職事件で明らかになったように、いままでの市政が利権と権力志向で、旧態依然の強い者勝ちの閉鎖的な村社会だったのです。悪すぎたのです。ガラパゴス化した村で、保身を図る老議員たちは、解散されて落選すると困るので市長不信任案も出せず、手を拱(こまね)いて、ただただ傍観するのみです。いよいよ、日本でも、若者革命が起き始めたのです。

デジタル化とガラパゴス化

若き市長と老いた議会と議員の勝負は、すでに明かです。これも、ＤＸ(デジタル化)された世代と携帯電話やコンピュータさえ持っていない旧世代の差です。議会での市長に対する質問の多くは、「市政をどうするのか？」「この事業の真意はなにか？」といったものばかりです。従って、市長の答弁は、「すでに、市のホームページに掲載されています。それををご覧になってから、ご質問下さい」に尽きます。「ホームページをご覧になれない議員には、市役所においでいただければ担当者が資料を持って丁寧にご説明いたします」とまでいっています。ところが、議員の市長に対する思いは、そこにはありません。議員たちが市民に求めるのは、遠くにいるデジタル俊足騎士ではなく、主に、自ら先頭に立って旗を振り、職員や市民を鼓舞する古風な関ヶ原時代の大将の姿です。

現代人の市長は、市の職員を組織化して、それぞれに役割を分担させ、それぞれに責任を持たせるマトリクス型やネットワーク型の組織で市政を運営しているのです。いまの時代、首長は現場にいなくても、ＤＸで連絡がとれて、判断や命令が出来ればそれでいいのです。必ずしも、市民に付き添って顔が見えるところにいなくても良いのです。担当者に責任を持たせた以上、彼ら／彼女たちと一緒にいれば、責任者の士気やリーダーシップを損ねることになります。それが、旧態依然の議員たちには理解出来せん。市を台風が襲った時に、市長がトライアスロンに参加していたことを、競技

の写真まで披露して、ある議員から市長の欠席を詰(なじ)る質問が市会で出ました。その日は、市役所は休日でした。市長も休日でした。これは、プライバシーの侵害です。そのことを、市長ははっきり述べました。でも、多くの老齢の議員には、理解できないことでした。ホームページも利用できない古い議員は、現代の市政ではお役ごめんです。これが現実です。

You can't help getting older, but you don't have to get old.

訳　年を取るのはどうしようもないが、年寄りになる必要はない。

学問で勝負

でも、高齢者にも、まだまだ、それなりの役割は残っています。『徒然草』には、次の文章も見えます ―

> 人に勝らむことを思はば、ただ学問して、その智を人にまさらむと思ふべし。道を学ぶとならば、善に伐(ほこ)らず、ともがらにあらそふべからずといふことを知るべき故なり。大きなる職をも辞し、利をもすつるは、ただ学問の力なり。　（徒然草・一三〇段）

訳　人よりもまさってやろうと思うなら、ひたすら学問をして、そのほうの智を人よりもまさろうと思うほうがいい。学問で人に勝とうというのも、勝負であることでは同じようだが、それは、道を学ぶという以上は、善行をば自慢しないで、同僚と争ったりしてはならないことを、知ることができるからいいのである。高い官職をも辞し、利と見ても捨てることのできるのは学問の力よりほかにはない。

「学問」とはいわないまでも、本を読んだり、オペラを観たり、ＴＶでドラマや映画を観たり、一人でいろいろ学ぶことは出来ます。また、若い人に教えることもできます。石丸市長の急進的で破竹的なやり方に、喝采を叫ぶひともいれば、疑問を持つ人もいます。いままでの市政が悪すぎたので、改革するには、時にはちゃぶ台返しも必要でしょう。でも、こんなときほど、仲裁役として、学問ある、古くからの教育者たちや村の仕来りを知る古老たちの出番です。いつの時代も、「あらま欲しくは先達」です。どこでも、いつでも、新旧の交代には、おだやかなソフトランディングが必要です。“The difficulty lies, not in the new ideas, but in escaping from the old ones.”（この世で一番むずかしいのは新しい考えを受け入れることではなく、古い考えを忘れることだ）と言ったのはケインズです。「古い議員のがんこで、見聞がせまく、また、考え方が古くて新しいものを受け入れないことを承知してことに当たれ」とケインズはいっているのです。まさに至言です。勝つばかりが、勝ちではありません。

格言としての『徒然草』は古すぎるとしても、ダーウインはいいます ―

Ignorance more frequently begets（原因となる）confidence than does knowledge: it is those who know little, not those who know much, who so positively assert（断言する）that this or that problem will never be solved by science.

訳　無知というのは、しばしば知識よりも確信に満ちている。科学によってこれやあれやの問題を解決することは絶対にできないと主張するのはきまって知識がない人である。

大谷負傷問題にも、安芸高田市政問題にも、この暑さ問題にも、学問と知識による解決法が見つかるはずです ― と期待しましょう。まず、大谷問題ですが、彼は、右投

げ・左打ちなので、実は左右の両手利(き)きなのです。それで、ピッチャーとして投げるときにも、左手で投げるようにすればいいのです……と言うのが私の解決法です。どうです、いい案でしょう、大谷君！

落語の落ち

では、お気に入りの落語のオチを一つ。
これは、我が家での毎朝交わす、痴呆症防止の会話に使っています。

佳世さんや、いま通ったのは隣の甚兵衛さんじゃなかったかね？
いいえ、おじいさん、いま通ったのは、お隣の甚兵衛さんですよ。
おや、また、隣の甚兵衛さんかと思ったよ。

では、おあとがよろしいようで……。

【2023/09/02　都築正道】

中央がコジマ・ワーグナー その右が息子のジークフリート・ワーグナー